



平成 25 年のカツオ漁と標識放流調査

カツオの漁模様

平成 25 年のカツオ漁模様と標識放流についてご紹介します。

1～5 月の八丈島のカツオ漁獲量は 158.4 トンでした。これは前年の 122.7 トンよりは増えていますが、過去 10 年平均とくらべると 39% になり、1980 年以降では近年同様の不漁傾向が続いています（図 1）。また、漁船一隻当たりの漁獲量（CPUE）は 97.8kg/隻となり、過去 10 年平均とくらべると 78.7% で低い水準となっています。

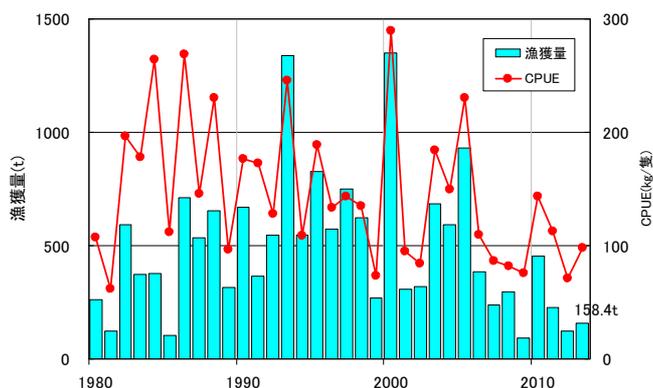


図 1 カツオ漁獲量と CPUE の推移



写真 1

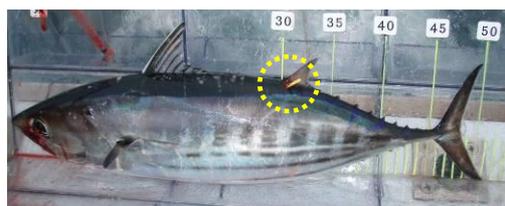


写真 2

標識放流

カツオは赤道付近からいくつかのルートをとって日本近海へ来遊することがわかっていますが、詳しい回遊経路などはわかっていません。そこで、八丈島周辺において標識放流調査を行っています。

調査指導船「たくなん」で漁獲されたカツオの背鰭付近に、標識タグを打ち込んで放流します（写真 1.2）。今年は 4～5 月に八丈島周辺で 331 尾に標識を付けて放流し、これまでに 20 尾が再捕されており、これは放流数の 6.0% にあたります（図 2）。

これまでの調査で八丈島周辺に来遊したカツオは、小型でやせたものは北上し、大型で太ったものは八丈島周辺で滞留するか、もしくは南下をする、という回遊パターンがあることがわかっています。このような調査を継続し、カツオの来遊状況などを知る手がかりとしています。

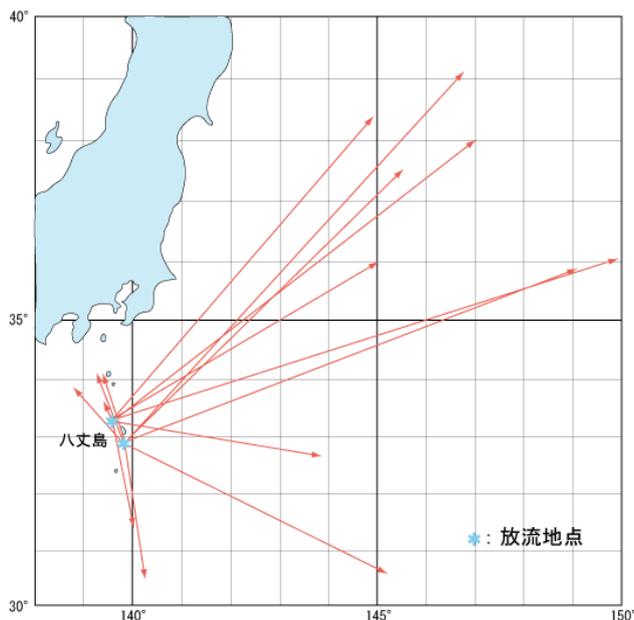


図 2 放流地点と再捕地点